

地域における社会資本の機能と役割

—日本の公共図書館を対象とした実証分析—

岡安麗奈

(青山学院大学大学院 経済学研究科 博士後期課程)

要旨

近年、地域活性化の拠点として、図書館や博物館といった公共文化施設の存在が注目を集めている。本論文では、その中でも公共図書館に着目し、それがいかなる機能や役割を果たしているのか、実証的に分析を行った。

分析の手法は、これまでの公共文化施設の評価が運営効率や収支のバランスといった量的側面に偏りがちであったことを踏まえ、本論文では、仮想評価法（CVM）を用いることで、人々の価値意識を重視した質的側面に焦点を当てて評価を試みた。具体的には、アンケート調査にて、支払意思額（WTP）として「当該図書館が仮に有料化された場合に、1回あたりの利用料としていくら支払うか」などを尋ねた。

分析の結果から、WTPの中央値は約103円、平均値は約178円であることや、利用頻度が高い人の方が低い人よりもWTPは約106円少なくなることが分かった。また、回答者が重要視している価値としては、「自分は図書館をあまり利用しないが、他の人が利用しているから」という「代位価値」、「地域に図書館があることを誇りに思うから」という「威信価値」、「自分は図書館をあまり利用しないが、将来、子どもや孫にとって図書館が必要だと思うから」という「遺贈価値」の存在が確認された。さらに、先行研究の結果と大きく異なる点として、「図書館があることで、地域の景観が美しくなり、魅力を高めると思うから」という「審美的価値」がWTPに有意に影響を与えることが明らかとなった。